

軽井沢の過し方

軽井沢の生活

私達世代は、日本経済成長期と相まって、仕事一筋の人生だったと言っても過言ではありません。70歳で仕事から遠のき、軽井沢と東京の生活が半々になりました。

一般的に軽井沢の滞在は静養と見られていますが、先日までの知的作業をしていた私は最近肉体作業へと様変わりさせ、庭作りの明け暮れです。毎日の日没に、悔しい思いを繰り返しています。

15年間利用していた軽井沢町太郎山山荘から現在の軽井沢町南ヶ丘に移って3年目を迎えましたが、4月中旬～GWに続き今回も珍しい宿根草と山野草の注文、そのデザインをしながら、新しく入荷する宿根草と山野草の場所作りです。



南ヶ丘のメイン通路の庭



南ヶ丘の山野草ゾーンの庭

宿根草は、約400種生存していますが1/3に当たる約145種を5/28に入荷し旧新の入れ替えを行います。

一方、山野草は100種程育てていますが、新たに約60株追加しました。

特に、育てが難しく高価の高山植物はごぼう根で毛根が無く、根付くかどうか不安です。これらの特殊の山野草は、専門家の意見によると、育たないと口を揃えて言っています。これが的中すれば、高価品が水の泡です。

これらの高山植物(山野草含む)は、涼しい軽井沢に適していると考えがちですが、軽井沢は湿度が高く、高価な花ほど育てにくいのです。そこで、鹿沼土製造会社から、ランやユリを育てているプロが使用する土を取り寄せ、各種山野草の性格に合った土の配合を作り、土壌改良しながら床作りを通して、未知の世界への挑戦です。昨日は、終日かけて山野草を植え込みました。幸い、今日のPM小雨ですから、花達が喜んでいます。

珍種で育て方が難しい山野草を生かすには、軽井沢で育て(生存して)いる花の生態を実施に自分の目で観察する必要があります。

軽井沢の町花サクラソウ

最近、サクラソウの周辺に生態系バランスが崩れ、サクラソウが赤信号です。

それは、サクラソウの花粉を運ぶトラマルハナバチが外来種のミツバチに殺され絶滅に近く、また自然環境破壊から彼らの育つ環境が狭ばめられている上、サクラソウが乱獲されているからです。

先日、軽井沢の経営者が我が家に来られ、花の庭づくりを進めている私達に、「軽井沢サクラソウ会議」を紹介されました。同会議は、軽井沢の山野草、動物、昆虫を守るボランティア団体です。早速、家内と入会の手続きをしました。

今日の同会議の観察会は、タリヤセン内の小高い山中に群落しているサクラソウと瑠璃草の生態観測でした。サクラソウの群落は初めて観ました。勿論、この場所は一般の見学者には解放されていないようです。



トラマルハナバチ



タリヤセン

サクラソウは、トラマルハナバチによる花粉で種子を作り繁殖します。もう一方は、クーロンと言って地下根を伸ばし殖やすのです。

前者は、トラマルハナバチの助けですから、サクラソウの花弁表面にハチの爪後が残っています。後方で殖えた群落は、真っ赤、ピンク、薄ピンク(白花に近い)のサクラソウが見られます。

サクラソウの生存地は、北面と西面で、朝にこぼれ陽が入り、PMは大木の影で乾燥から守られています。普通、花の雌蕊は雄蕊よりも長い(長花柱花と言う)のですが、サクラソウは殆ど短花柱花でした。そして、サクラソウと瑠璃草が共存していました。



サクラソウと瑠璃草の生存地



サクラソウ/手前右下は瑠璃草

瑠璃草

昔、軽井沢のあちこちに瑠璃草が群生していましたが、現在は大きな樹木があり下草の手入れが行き届いた広い敷地内に稀に目掛ける程度です。サクラソウは多くの人に守られ復活の兆しがありますが、瑠璃草は絶滅危惧種の仲間入りするのではと、心配されています。

幸い、我が家の庭には、購入した時に 50 株程生存していたのです。厳しい保管管理をしながらも建築工事中に荒らされ、20 種程に減っていたのですが、お陰様で 50 種程に回復しています。

また、サクラソウと瑠璃草の生存地を観察しましたから、参考にして更なる殖やし方(育て方)に努めます。

一方、サクラソウは知人から頂いたり花店で購入したものが、順調に殖えており、現在真っ赤、ピンク、薄ピンク、白花らが約 100 株程元気に生存しています。ロシアには、黄花サクラソウが生存しているようです。

庭では、シラネアオイ、ヤマシャクヤクが咲き終わり、クロユリ、エンレイソウ、クリンソウが競って開花しています。もうすぐ、大好きなササユリやヒメサユリが咲き始めます。また、徳島県須賀町にしか生存しない天然記念物の神領ユリを昨秋ラッキーにも 4 球入荷し、冬に 2 球溶け 2 芽出していたのですが、その内 1 芽につぼみが付きました。勿論、実物を見た事ありません。軽井沢の滞在中に咲かなければ、知人に写真撮影を依頼します。

また、原種チューリップは可憐でいいですね。昨年は、鼠かモグラに球根を食べられましたので、今年は根元にゼオライトを巻き、今のところ姿が消えていません。

珍種と言えば、軽井沢では見たことの無いイエローバード(木蓮の一種)が咲き出しました。同木は、ヨーロッパが原産で、背丈が 10m 程です。1 か月程咲いています。上品な花です。ただ、軽井沢に多いコブシから害を受け育て方が難しいので、夏場に業者の手で根気良く 3、4 回消毒を依頼しています。



絶滅寸前の瑠璃草ト城



珍種イエローバード

P S : 今日、「軽井沢サクラソウ会議」のメンバーにロシア人の女性が参加していました。昨年クロアチアのブリトヴィツェ湖国立公園内で黄花アザミを見つけ、ありとあらゆる手を施していますが、国交が開けていないことから、入手のメドが立っていません。彼女によると、ロシアにも黄花アザミが生存しているようで、種子を取り寄せられないかと依頼しました。この様に、珍種は八方手を尽して取り寄せています。